

授業概要

英語は今や国際語として認知されているが、その歴史は実は波乱万丈だったといってもよいだろう。そもそも英語はイギリス人の祖先である北ドイツの小部族、アングロ・サクソン人の言葉であった。そのゲルマン人の言葉が、1066年にフランスの一地方の領主がイギリスを武力制圧した大事件などの数々の外圧に影響を受けて、徐々に現在の形に変化していった。その歴史的過程を見ていくのは非常に興味深いことである。

英語を学習していると、様々な疑問が浮かぶことがある。英単語の綴り字はなぜ発音通り書かれず不規則で、ひとつひとつ暗記する必要があるのだろうか。複数形は単数形にsをつける（例えば books）はずなのに、なぜ child の複数形は children なのだろうか。このような疑問は英語を歴史的に考察すれば自ずと解けていく。英語を過去から歴史的に分析し、現在の英語をさらに深く理解すること、これがこの講義の目的である。

授業計画

第1回	イントロダクション：授業の概要、成績の評価方法などの説明
第2回	古英語期：英語のルーツ（言語発祥の起源から英語が出来るまで）
第3回	古英語期：ケルト人、ローマ人によるイギリス侵略とその英語への影響
第4回	古英語期：アングロ・サクソン人によるイギリス侵略と彼らの文化
第5回	古英語期：古英語の主な特徴
第6回	古英語期：ヴァイキングによるイギリス侵略とその英語への影響
第7回	中英語期：ノルマン・コンクエスト（フランスの一地方の領主によるイギリス侵略）とその英語への影響
第8回	中英語期：中英語の主な特徴
第9回	近代英語期：標準語の成立と大母音推移（初期近代英語期の長母音に生じた音韻変化）
第10回	近代英語期：ルネサンスと宗教改革から生じた言語に対する相対する考え方
第11回	近代英語期：シェイクスピアの英語の基本的性格
第12回	近代英語期：綴り字問題（当時の不規則な綴り字を統一しようとする様々な動きと現在の英語の綴り字が不規則である原因）
第13回	近代英語期：規範文法の誕生（現在の英文法がいかに確立していったか）
第14回	近代英語期：アメリカ英語
第15回	まとめ(国際語としての英語も含めて)
第16回	定期試験(筆記試験)

到達目標

世界共通語としての英語の歴史の全体像を3期に分けて概観することによって把握するとともに、それを通して現在の英語について、さらにはアングロ・サクソン人を中心とした英語圏の人々の考え方について学ぶ。

履修上の注意

この講義の目的は英語の読み書きではなく、ある言語の歴史を学ぶことにあるため、当然ながら英語が苦手な方も受講できる。言葉に興味がある方ならば受講を歓迎する。テキスト、プリント等は日本語で書かれたものを使用する。

予習・復習

配布するプリントには單元ごとに理解度をはかるチェック・ポイントを載せている。これを参考にしながら予習・復習を毎回行っていただきたい。

評価方法

課題（20%）と定期試験（80%）で評価する。定期試験の問題は、授業中に受講者に配布するプリントにあらかじめ提示した問題の中から出題する。詳細については初回の授業で説明する。

テキスト

渡部昇一『英語の歴史』大修館書店（スタンダード英語講座3）。適時、プリントを配布する。